

矢作川流域圏懇談会通信

H28 山部会編 vol.6



発行日：平成 28 年 12 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 37 回山部会WGを開催しました！

11 月 25 日(金)に第 37 回山部会WGが根羽村にて開催されました。今回の WG では、山村再生担い手づくり事例集、矢作川流域山村ミーティング、矢作川流域圏森づくりガイドライン、矢作川流域圏木づかいガイドラインに関して、現在の進捗状況と今後の予定を話し合いました。

日時：平成 28 年 11 月 25 日(金)
場所：根羽村老人福祉センター「しゃくなげ」
参加者：12 名(事務局含む)



◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について

現在、“山村再生担い手づくり事例集「その後いかがお過ごしですか？」プロジェクトの 1 年目として、平成 25 年度に取材を行った団体を再訪し、レポートを作成しています。

①今後のスケジュール

- 年内・・・取材の完了
- 1 月・・・調査者によるレポートの作成～提出、
- 2 月～3 月・・・レポートの校正およびとりまとめ
- 4 月・・・山村再生担い手づくり事例集交流会

②交流会の日程調整

開催場所は、前回までの WG で根羽村に決定しています。本日は開催日と宿泊先を決めます。



「ねば杉っこ餅」の取材風景



「NPO 法人 奥矢作森林塾」の取材風景

2. 矢作川流域山村ミーティングについて

矢作川流域山村ミーティングでは、以下の 2 つの議題について、情報共有と意見交換を行いました。

①流域に関わるお祭りの実施に向けて

- ・豊田市の矢作川感謝祭について、実行委員会を 12 月より始動する予定です。
- ・4 月の事例集交流会は、山村ミーティングの面からも定着するお祭りになりたいと考えています。

②流域の森林組合の作業班を対象にしたヒアリングに向けて

12 月以降、根羽村森林組合、恵南森林組合、豊田森林組合、岡崎森林組合を訪問する予定です。

3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

矢作川流域森づくりガイドラインでは、以下の 4 つの議題について、情報共有と意見交換を行いました。

①岡崎市で実施された「水源林を考える会」の活動報告

⇒10/23 と 11/2 の 2 日間、岡崎市の水源かん養施策について、講演と意見交換が行われました。

②桂川流域フォーラムのお知らせ

⇒内閣官房水循環政策本部が今年度の事業として、先進的な流域マネジメントに関するモデル調査を事務局と協力する団体を募集した結果、3 つの自治体が採択され、その 1 つが岡崎市に決まりました。

③国の水循環施策に関する最新情報

⇒我が国では、堆砂率が 40%以上のダムが 4 割ぐらいあり、ダム管理費の 40%以上が浚渫費となっています。矢作ダムも同様の問題を抱えており、森林の適正な管理が急務となっています。

④神奈川県山北町の勉強会に向けて

我が国の先進事例を学ぶため、1 月 27 日の地域部会の後に移動し、28 日に神奈川県山北町の森林組合等を訪問します。

4. 矢作川流域木づかいガイドラインについて

矢作川流域木づかいガイドラインでは、主に 2 つの議題について、情報共有と意見交換を行いました。

①全体会議での「流域ものさし」試作の提案

⇒流域連携テーマの木づかいの一環として、全体会議において「流域ものさし」の試作を行いたいと思います。

②豊田市の空間デザインに関するイベント紹介(来年 11 月実施予定)

⇒現在、豊田市駅前に人が集うための空間の活用方法を検討しています。皆さんのアイデアを募集します。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手づくり事例集について

- ・ 21 団体への取材は、おおよそ完了している。現在、取材をもとにレポートを執筆している状況だ。(洲崎)
- ・ 交流会へのお誘いは、山村再生担い手づくり事例集の取材先のすべてを対象にするのか。(山本)
 - ▶ すべてを対象とします。そのため、今日日程を固めて、メーリングリストなどで伝えたいと思う。(洲崎)
- ・ 3月には忙しい。年度をまたいで実施する方が良いのではないかと。(蔵治)
 - ▶ 積雪が避けられる4月にしたい。それであれば、参加者も増えるはずだ。(洲崎)
- ・ 4月中旬の土日がいよいよ。場所は、グリーンハウス森沢でどうか。(山本、丹羽)
 - ▶ それでは、開催日を4月15日(土)～16日(日)、宿泊場所をグリーンハウス森沢としたい。(洲崎)

●矢作川流域山村ミーティングについて

《森林組合の作業班を対象にしたヒアリングに対する意見交換》

- ・ ヒアリングの対象は、根羽村森林組合、恵南森林組合、豊田森林組合、岡崎森林組合の4団体か。(浅田)
 - ▶ 4団体を対象とするが、串原農林などにも声を掛けてみたい。(丹羽)
- ・ 周りには既に作業班を辞めた人もいます。辞めた原因についても可能な限り聞いてみたいと思う。(丹羽)
 - ▶ それは気になるどころだ。我々が聞けない部分を第三者の立場で聞いていただきたい。(眞木)

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

《岡崎市で実施された「水源林を考える会」の活動報告に対する意見交換》

- ・ 眞木さんが「森林組合員をいかに失望させないか」と発言されているが、根羽村でも同じことがいえる。(今村)
 - ▶ これはまさに私が取材して確認したいこと。これまでの森林組合は若者の就業定着が課題であった。あれから10年が経ち、今では中堅離脱が大きな問題となっている。(丹羽)
- ・ 根羽村森林組合でも中堅離脱は問題になりつつある。もともと林業を志す者は、自由思考が強いので、消防団への加入や地域活動への参加に意欲的ではない。そのため、技能を極めるために村を出ていく人もいます。(今村)
 - ▶ 岡崎森林組合では、8割程が街から通っている状況で、サラリーマンのような就業形態となっている。(眞木)

《国の水循環施策に関する最新情報に対する意見交換》

- ・ 森で砂の流出を止めるだけで、いかに大きな価値があるかということ表現すべきだ。(丹羽)
 - ▶ 試算すると1年で4億円かかっていることになる。それだけに、森林の管理が重要といえる。(蔵治)

《神奈川県山北町の勉強会に対する意見交換》

- ・ 流域の活動という面では、神奈川県や山梨県が全国で一番進んでいる感じを受ける。(今村)
 - ▶ 特に森づくりという観点では、昔は矢作川流域が国をリードしていたが、今では神奈川県に先を越された感がある。しかし、岡崎市では水源かん養施策の視点で、豊田市では森林施策の視点で新たな取り組みが進められている。このタイミングで流域圏の統一されたガイドラインを作成したいと考えている。(蔵治)
- ・ 林業だけの問題にとどまらず、山から砂が流れるという矢作川の総合土砂管理の問題にも関わるため、川部会や海部会にも声をかけたい。(大森)
 - ▶ これは流域全体の勉強会となり得ると思うので、流域圏懇談会すべてのメンバーに声を掛けたい。(蔵治)

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

《全体会議での「流域ものさし」試作の提案に対する意見》

- ・ 是非実施したい。それから、場内の空いたスペースに、根羽村森林組合のどこでもシリーズ(動く木のおもちゃなど)を並べると、和やかな雰囲気できると思う。(蔵治、洲崎)

《豊田市の空間デザインに関するイベント紹介に対する意見交換》

- ・ 豊田市では、ヒートアイランド現象が大きな問題となっている。街の真ん中に緑があると、こんなに違うんだということを感じられるスペースが欲しい。(洲崎)
 - ▶ 原木を持ち込んで、そこでワークショップをするのも面白い。(山本)
- ・ 市民に賛同が得られれば、定着すると思うので、是非成功させたい。(今村)



今後のスケジュール (予定)

次回の山部会 WG は、12月16日(金)～17日(土) 豊田市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、技官 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

